

海外安全対策情報（ポルトガル・2023年7月～9月）

1 治安情勢等及び邦人被害の状況

(1) 治安情勢等

ア 2022年の犯罪発生状況

2022年の一般犯罪認知件数は343,845件で、前年比14.1%（42,451件）増加し、新型コロナウイルス感染拡大前の2019年と比較すると2.5%増加しました。

凶悪重大犯罪の認知件数は13,281件で、犯罪全体に占める割合は3.9%です。前年比では14.4%増加しましたが、2019年と比較すると7.8%減少しました。

認知件数が増加した犯罪の中では、特に路上強盗及びひったくり強盗が目立ち、凶悪犯罪全体の53%を占めています。

また、家庭内暴力は前年比15%（3,968件）、集団犯罪（3人以上の犯行による犯罪）は18%（898件）、青少年犯罪は50.6%（567件）、それぞれ増加しました。

若者による犯罪では、強盗、窃盗、暴行及び増加傾向にあるサイバー犯罪でブラジル人による犯行がそれぞれ目立ちました。

イスラム過激主義関連では、ポルトガル国内においてテロ組織や関係者の存在に係る兆候はありません。その一方、ポルトガル在住の若者が、TelegramやViberを通じ、テロ関連情報や関係者への接触を試みる事案が報告されています。

イ 2023年の犯罪発生状況

(ア) 上半期の家庭内暴力事件

市民権・性別平等委員会によると、今年上半期に治安警察庁（PSP）及び共和国警備庁（GNR）が受理した家庭内暴力事件は14,863件（前年同期は14,373件）で、1日平均82件発生している計算になります。

容疑者2,298人のうち、1,786人が遠隔監視システム対象者で、死亡した被害者12人のうち、10人が女性でした。

(イ) 詐欺事件の増加

a 住宅の賃貸契約に関する詐欺事件

PSPが今年6月末までの半年間に認知した住宅の賃貸契約に係る詐欺事件は807件で、被害総額は約500万ユーロ超に上ります。実際には存在しない住宅の賃貸契約を結ばせたり、同一物件を複数人に契約させるといった手口です。2016年は244件でしたが、その後増加傾向にあり、昨年は1,214件でした。

b 国際司法警察を名乗る電話による詐欺事件

8月21日、最高検察庁は、国際的詐欺グループによる警察をかたった電話使用詐欺事件についての注意喚起を行いました。同庁サイバー犯罪対策室によると、今年7月末から同種の詐欺事件が増加しており、電話に出ると、国際司法警察をかたり「身分証が国際的な犯罪に利用されたため指名手配されている」という英語のメッセージが流れた後、詳細を知りたいければ特定の番号ボタンを押すよう促され、最終的には、金銭を特定の口座に振り込むように仕組まれています。

c 仮想通貨に係る詐欺事件

最高検察庁によると、インターネット上での仮想通貨関連の詐欺事件の被害が増加傾向にあり、2022年は94件と、前年の38件から倍増しました。昨年は、架空の投資話を持ち掛けられ、約29万ユーロ相当の仮想通貨をだまし取られる事件などが発生しています。

(ウ) 薬物事犯

a リスボン首都圏

PSP リスボン首都圏本部によると、今年1月から8月までに薬物密売の容疑で3,251人（前年同期比10%増）が逮捕されました。ミゼリコルディア地区（サントス、カイス・ド・ソドレ等）での逮捕者数が最も多く、カンポ・デ・オウリケ地区（セウタ通り）、サンタ・マリア・マイオール区（バイシャ地区、マルティンモニス地区等）と続き、合わせて大麻61kg、コカイン10kgなどが押収されています。

b ポルト市内パステレイラ街区

ポルト市内パステレイラ・ノヴァ街区は、一時期「薬物のスーパーマーケット」と呼ばれていましたが、PSPによる摘発や、PSPや市等が設置した鉄柵による不審者の滞留防止策の結果、治安は改善されつつあります。その一方で、薬物密売人らは隣接するラマルデ地区、カンピーナス地区、フランコ地区のほか、ポルト市内東のセルコ地区やラガルテイロ地区へと拠点を移しています。

(エ) 交通違反

PSP及びGNRが、8月17日から23日にかけて交通違反の取り締まりを実施したところ、6日間で13,691件の交通違反を検挙し、うち884件は飲酒運転に関する違反でした。また、同期間に発生した交通事故は2,694件、6人が死亡し、966人が負傷しています。

(オ) 速度違反自動取締装置の設置強化

毎年平均600人が交通事故で死亡していることを受け、国立道路安全機関（ANSR）では、速度自動取締装置の設置台数を増やすことを計画しています。123台にまで増やす予定で、9月1日に新たに設置された37台を加え、全国で合計98台となりました。最初の24時間に検挙された速度違反は約6千件で、特に国道125号線（アルガルベ地方）、高速道路A1号線（リスボン-ポルト）、A4号線（ヴィゼウ-シャーヴェス）、A29号線（オヴァール-ヴィラ・ノヴァ・デ・ガイア）、A23号線（トーレス・ノヴァス-グアルダ）などでの検挙が目立ちました。

(カ) 電動キックボードの事故

7月23日21時頃、アルカセール・ド・サル市内において、傾斜の急な坂を電動キックボードで下っていた15歳の少女と16歳の少年が、運転操作を誤り住宅の壁に衝突、少年が死亡し、少女は軽傷を負いました。リスボン市及びポルト市の主要な公立病院の統計によると、2021年以降電動キックボードの事故で5人が死亡し、10人が重傷を負いました。

ウ 防犯対策

(7) 監視カメラの設置

内務省は8月11日、オリャン市及びポルティマン市内への監視カメラの設置台数の強化及びレイリア市に設置されたカメラの使用許可の延長を承認しました。これにより、オリャン市内監視カメラ設置台数は67台、ポルティマン市内は42台となります。

また、PSP ファロ県本部とラゴス市役所は8月25日、同市内への防犯カメラの設置に関する協定に調印しました。

(1) “Esquadra do cidadão” の創設

ジョゼ・ルイス・カルネイロ内務大臣は9月22日、全国の区役所(freguesia)に警察署の出先機関として“Esquadra do cidadão”を設け、特定の犯罪について、PSP警察官が被害届を受理する制度を試験運用することを明らかにしました。

(2) 邦人被害

2023年7月から9月の間、大使館に届出があった邦人の犯罪被害件数は6件で、いずれも9月上旬、リスボン市内を観光中にバックパック等の中から旅券を盗まれる被害です。

路上や観光スポットはもちろん、高級ホテルのロビーにも窃盗グループが常駐し、犯行の機会を窺っています。バッグは、常に視界に入る場所に持ちましょう。

2 報道された主な凶悪犯罪

(1) 路上強盗

- 7月25日、リスボン市内コメルシオ広場近くの船着き場から対岸に渡る定期船内において、17歳の少年が乗客から500ユーロ相当の携帯電話を奪った。
- 7月26日、ヴィラ・ノヴァ・デ・ガイア市内アヴィンテス地区において、少年が5人組に囲まれ所持品を奪われた。
- 7月28日未明、カスカイス市タマリス海岸において、通行人2人が16歳から18歳の4人組に襲われ金品を奪われた。
- ここ数か月間にリスボン市内の地下鉄駅において、利用者を刃物で脅し金品を奪っていた19歳と20歳の2人組がPSPに逮捕された。少なくとも14件の強盗を繰り返していたとみられる。
- 8月8日21時半頃、リスボン市アルミランテ・レイス通りにおいて、犬を散歩中の27歳男性が、男とその共犯に刃物で切り付けられるなどして所持品を奪われた。
- 8月27日、ポルティマン市内アルヴォール地区において、19歳から23歳までの女性3人が、拳銃を突きつけられ金品を奪われた。
- 8月27日未明、リスボン市パルケ・ダス・ナソインス地区にあるカフェの屋外席に座っていた少年が、4人組に拳銃で脅され、携帯電話を奪われた。
- 8月28日未明、カスカイス市内において、女性が15歳から17歳までの少年5人組に車を奪われた。5人組はその直後、奪った車を使用し2人の未成年者を襲って金品を奪った。

(2) 住宅対象強盗

- 7月12日3時過ぎ、アマランテ市内フレイショ・デ・バイショ地区所在の71歳男性の住宅に、覆面をした4人組が押し入り、男性に拳銃を突きつけ、現金2万5千ユーロなどを奪って逃走した。
- 7月17日6時過ぎ、リスボン市アメイショエイラ地区フォルテ通りにおいて、自宅から出てきた夫婦が、待ち伏せていた覆面姿の4人組に襲われた。4人組は夫婦を拳銃で脅し、乗用車を奪って逃走した。

- ・ 9月11日1時過ぎ、アレンケール市ペナフィルメ・ダ・マタ地区所在の住宅に、拳銃を持った2人組が押し入り、42歳の娘と76歳父親を拳銃で脅し、現金1万ユーロや高級腕時計などを奪って逃走した。口を塞がれ手足を縛られた娘の窒息死が確認された。
- ・ 9月11日23時40分過ぎ、カスカイス市内アフォンソ・デ・アルブルク通りの住宅に、覆面をした3人組が押し入り、家人を拳銃で脅して、数千ユーロ相当の高級腕時計などを奪って逃走した。3人組は、住宅の扉を乗り越え敷地内に侵入し、玄関のインターフォンを押して、家人に扉を開けさせたものとみられる。
- ・ 9月15日22時半過ぎ、オヴァール市内の住宅の扉をバールでこじ開け4人組が侵入し、61歳の男性を刃物で脅すなどして、宝飾品を奪って逃走した。

(3) ひったくり

- ・ 8月24日、ブラガ市内において、72歳の女性が男に鞆をひったくられた。
- ・ 8月30日、ポルト市内中心部サンタ・カタリーナ通りにおいて、通行人の男性が携帯電話をひったくられた。
- ・ 8月31日18時50分頃、ポルト市内アルメイダ・ガレット広場において、37歳の女性が男にカバンをひったくられた。ひったくられた際女性は、階段から転落して意識を失い、病院に搬送された。

(4) すり

- ・ 9月5日、ポルト市内バイシャ地区で高齢の女性から財布を盗んだ24歳の男が共犯の22歳の女と共に逮捕された。男はリスボン市内ですりを繰り返していたが、数か月前にリスボン市内バイシャ地区への立ち入りを裁判所から禁止された上で釈放されたため、ポルトに移動して犯行を繰り返していた。

(5) 車上ねらい

- ・ 7月16日、ポルティマン市内において乗用車内から金品を盗んでいた56歳の男がPSPに逮捕された。男は乗用車のタイヤに穴をあけるなどして運転手が車外に出たすきに車内の金品を盗んでいたもの。同様の手口で発生した7件の窃盗事件の犯人とみられる。
- ・ 7月17日、アルマダ市カパリカ海岸の駐車場において、駐車車両を物色し、キャッシュカードを盗んでいた23歳から44歳までの男女5人が逮捕された。
- ・ 8月2日PSPは、リスボン市内でワールドユースデーに参加していた65歳の男性から財布を盗んだ43歳と52歳の男を逮捕した。

(6) 発砲

- ・ 7月15日20時55分過ぎ、アマドーラ市内にある大型ショッピングセンターUBBO内のスポーツ用品店において、およそ15人の若者が乱闘となった。そのうち7人が各自所持していた拳銃を発砲。その場に居合わせた75歳の男性が流れ弾に当たり右足を負傷して病院に搬送された。若者らは、同市内ミナ街区とカザル・ダ・ボバ街区にそれぞれ拠点を置くグループで、以前から対立関係にあり、偶然店内で遭遇して、乱闘となったものとみられる。
- ・ 8月18日19時40分過ぎ、オディヴェラス市内中心部の路上において、対立するグループの乱闘騒ぎが発生、男性が銃を発砲され軽傷を負った。

3 テロ・爆弾事件発生状況

ありません。

4 誘拐事件発生状況

外国人を標的とした政治目的、身代金目的等誘拐事件の把握はありません。

5 対日感情

良好です。

6 日本企業の安全に関する諸問題

外国籍（日本資本を含む）企業が、犯罪に巻き込まれた情報の把握はありません。